

高等学校「音楽Ⅰ」



無料配信動画等を活用して、日本各地に伝わる民謡を各自が選択して鑑賞し、それらを次世代に伝えていく意味について考える。

高等学校「音楽Ⅰ」 「民謡を伝えていくことの意味を考えよう」

■ 題材の目標

- ・ 音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、及び我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴との関わりについて理解する。
- ・ 自分や社会にとっての音楽の意味や価値、及び音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや面白さを自ら味わって聴く。
- ・ 我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、それらを継承していく態度を養う。

■ 題材の概要

日本各地に伝わる民謡を、それぞれの種類や特徴を捉えながら聴き味わうとともに、それらの民謡が生まれた背景について知り、人々の生活との関わりについて理解する。その上で、現代に生きる私たちが民謡に親しみ、それらを次世代へ伝えていくことの意味について考える。

■ 題材の指導計画（2時間）

第1次（第1時）

「日本各地に伝わる民謡の特徴を捉えながら、よさや美しさを味わって聴こう」

- ・ 教科書の「日本各地に伝わる民謡」から、気になる3曲を選び、音楽の特徴（様式、種類など）を捉えながら聴く。
- ・ 選んで聴いた民謡から1曲を選び、よさや美しさをグループで紹介し合う。

第2次（第2時）

「現代に生きる私たちが民謡に親しみ、それらを次世代へ伝えていくことの意味について考えよう」

- ・ 社会や生活様式の変化に伴って、歌われなくなってきている民謡を、私たちが次世代に伝えていくことの意味や必要性についてグループで意見交換する。

■ 各次の学習の概要

選んだ3曲の民謡を、無料配信動画を利用して視聴し、それらの特徴を捉え、様式（八木節様式、追分様式、それらの混合様式）や種類（仕事歌、祝い歌、踊り歌…など）を分類する。さらに、それらのうち1曲を選び、インターネットを活用してその民謡が生まれた背景や歌詞の内容及び意味を調べ、音楽の特徴との関わりについて理解する。さらに、その民謡のよさや面白さを伝えるプレゼンテーション資料を作成し、グループで紹介し合う。

現代に生きる私たちが民謡に親しみ、次世代へ伝えていくことの意味についてグループで意見交換をし、全体でプレゼンテーションする。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2次）

【学習活動の場面】

第1次で、日本各地に伝わる民謡の特徴を捉えながら、自ら聴き深めたことを踏まえ、第2次では「現代に生きる私たちが民謡に親しみ、次世代へ伝えていくことの意味」についてグループで意見交換をする。

【生徒の「深い学び」の姿】

A 「生活や社会が変わってしまったので、歌い継ぐことで民謡を守ったり伝えたりすることは難しいんじゃないかな。」

B 「でも、**昔の人々の考え方や感じ方を知るための資料として守り伝えていくことは大事だと思うよ。**」

C 「いろんな民謡をじっくり聴いたり、みんなで歌ったりしてみて、民謡って**生活を楽しむたり、能率よく仕事をしたりするための知恵なんだ**って実感した。」

D 「私が聴いた民謡は、歌詞に込められた風刺が、旋律と見事にマッチしていて面白いなって思った。この部分、みんなも聴いてみて！」

A 「なるほど。昔の人って、つらいことや腹立たしいことなんかも歌にして発散していたのかもね。」

B 「“守っていこう”とか“伝えていこう”かと思っていたけど、気軽に楽しんでいくことが大事なのかもしれない。」

C 「インターネットを使えば、いろいろな地方の民謡を聴くことができる。それが、現代に生きる私たちの民謡との付き合い方なんじゃないかな。」

A 「**歌い継ぐことばかりが民謡を守る方法ではないかもね。気軽に聴いたり、口ずさんだりすることも大事なのかもしれない。**」

D 「“あの地域の、あの民謡が面白い”みたいに語れるっていうのが大事なのかな。」

B 「好きな民謡がひとつあるってイイかも！ **資料としてではなくて、毎日の暮らしの中で民謡を楽しむことが伝承につながるのだと思う。**」

【当該指導での「深い学び」】

生徒の会話からの気付き

①Aの場合

「民謡の伝承は「歌い継ぐ」だけではなく、気軽に聴いたり口ずさんだりすることで実現可能になる」

②Bの場合

「民謡の伝承は、資料性の保持という学問的価値よりも民謡自体を楽しむという生活に根差した行為こそが大切」

■指導上の工夫とICTの利活用

①生徒が興味をもった民謡を各自で自由に、繰り返し視聴することができる。
* 各自の端末で、**自分の聴きたい民謡を自分の視点で聴いたり、複数の民謡を比較しながら聴いたりする。**

②選んだ民謡を理解するために必要な情報を収集することができる。
* 選んだ民謡をより深く理解するためには**どのようなことを知るべきかについて、生徒が主体的に考え、必要な情報を収集しながら、その民謡のよさや面白さを見いだす。**

③選んだ民謡をグループで持ち寄り、互いに紹介し合ったり、一緒に聴き味わったりすることができる。
* 個々が聴き深めた民謡をグループで共有し、共通性や固有性に着目しながらそれらを**聴き深める。また一つの民謡を一緒に聴きながら、そのよさや面白さについて意見を交換したり、その価値について考えを述べ合ったりする。**



学習指導要領や解説との関連

本事例は、**高等学校学習指導要領 第3章 第7節 芸術の第2款 各科目 第1 音楽 I**の「**2 内容**」の以下の事項と関わる題材である。

「B鑑賞」(1) 鑑賞 ア(イ)(ウ) イ(イ)(ウ)

〔共通事項〕(1) ア

(生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」)

また、「**3 内容の取扱い**」では、以下のように記載している。

- (9) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の教材については、学校や地域の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする。また、「B鑑賞」の教材については、アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする。
- (10) 音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫する。なお、適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めることができるよう指導を工夫する。

なお、「**高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編**」(p.48)では、「B鑑賞」(1) 鑑賞の指導事項ア(イ)「自分や社会にとっての音楽の意味や価値」に係る指導について、以下のように解説している。

自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えることは、人間にとっての音楽の存在意義という視点から、人間と音楽とはどのように関わってきたのか、また、どのように関わっていくのかなどについて考えることにつながるものである。